



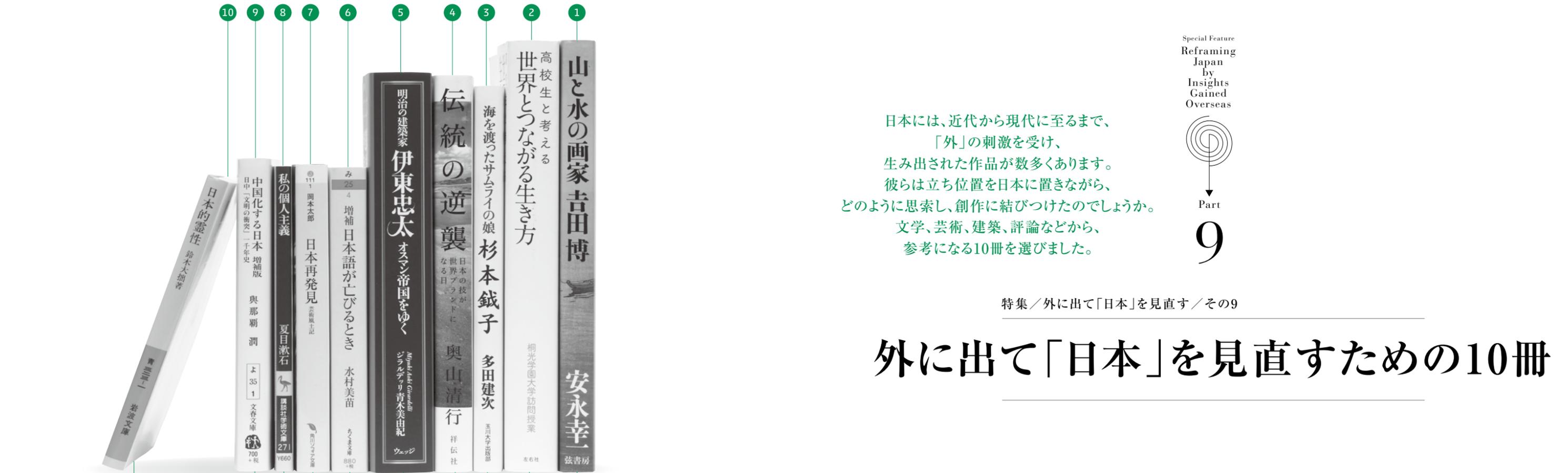
Part

9

日本には、近代から現代に至るまで、「外」の刺激を受け、生み出された作品が数多くあります。彼らは立ち位置を日本に置きながら、どのように思索し、創作に結びつけたのでしょうか。文学、芸術、建築、評論などから、参考になる10冊を選びました。

特集／外に出て「日本」を見直す／その9

外に出て「日本」を見直すための10冊



| | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--|------------------------------------|---|---|---|---|--|--|---|
| Number 10 | Number 9 | Number 8 | Number 7 | Number 6 | Number 5 | Number 4 | Number 3 | Number 2 | Number 1 |
| | | | | | | | | | |
| 『日本の霊性』 鈴木大拙著 岩波文庫／1972年 | 『中国化する日本 増補版』 日中「文明の衝突」一千年史 奥那覇 潤著 文春文庫／2014年 | 『私の個人主義』 夏目漱石著 講談社学術文庫／1978年 | 『私再発見』 芸術風土記 岡本 太郎著 角川ソフィア文庫／2015年 | 『増補 日本語が亡びるとき』 英語の世紀の中で 水村 美苗著 ちくま文庫／2015年 | 『明治の建築家 伊東忠太 オスマン帝国をゆく』 築地本願寺などを設計した明治の建築家・伊東忠太の評伝。日本が西洋中心の世界観を抱いていた時代に、伊東は世界一周の旅に出発し、オスマン帝国での回教建築との出会いを機に、東洋を発見し、独自の建築観を築く。伊東の建築物の独特の様式が、文化の多層性から生まれたことを解き明かす労作。 ジラルデッリ青木 美由紀著 ウェッジ／2015年 | 『伝統の逆襲』 日本の技が世界ブランドになる日 奥山 清行著 祥伝社／2007年 | 『海を渡ったサムライの娘 杉本鉞子』 アメリカでベストセラーとなった自伝『武士の娘』を著した杉本鉞子(えつこ)は、文明開化期にアメリカで暮らし、コロンビア大学で日本人のあり方と日本の現状を知る著者が発する「日本ものづくり」の未来へむけた新たな視座は、単に生産の現場だけにとどまらず、日本人全般の価値観に対する再考にも役立つ。 多田 建次著 玉川大学出版部／2003年 | 『高校生と考える世界とつながる生き方』 隈研吾や平田オリザら、建築・芸術などさまざまな分野で活躍する19人の「先生」が中高生に行った講義をまとめた書。若い頃の経験や今思う自身の職業の意義、さらにそれが生きるうえで何をもちたらし、どう世界とつながっているのかまでを深く語る。「明日を生きたるために何が必要か」。大人にもヒントになる一冊。 桐光学園中学校・高等学校編 左右社／2016年 | 『山と水の画家 吉田博』 明治期に渡米、パリやロンドンでも個展を開き高い人気を得ながら、日本画壇では評価されなかった画家吉田博。その反骨精神から新たな表現を模索し、唯一無二の版画作品を完成させた半生を、作品とともに紹介。海外を経験したことで「海外から見た日本」「日本人が描くべき洋画」を問い続けた姿勢は今に学べる。 安永 幸一著 弦書房／2009年 |